

## はじめに

東洋文化研究所は一九五二年設立以来、学内における東アジア学研究の先導的役割を果たしてきた。近年ではその成果を広く共有するための国際連携事業にも積極的に取り組んでおり、特に東アジア学研究の国際ネットワーク構築に力を入れている。グローバル化が進むなか学術交流も必然的に海を越え、国との境界線を越え広まってきている。当研究所はグローバル時代に相応しい学術貢献を模索しており、様々なプロジェクトを通じて学術ネットワーク構築を進めている。

特に二〇〇八年度から学校法人学習院国際交流基金の助成を受けることで、海外の大学・研究機関との交流が活発になってきた。近くは台湾、韓国、中国、ベトナムから、遠くはアメリカ、ドイツ、オランダに至るまで、多くの大学の研究機関を訪問し最新研究事情を見聞するとともに、相互の学術交流・研究協力の拡大についても広く意見交換を行ってきた。その結果、すでに海外五カ所の研究機関と研究協力協定(MOU)を締結し、さらには多くの研究者

を招聘し研究会、講演会、シンポジウムなど様々な学術行事を通じて、知的交流の輪を広げている。

二〇一〇年一月三〇日に学習院大学にて東洋文化研究所が主催した国際シンポジウム「東アジア研究の新たな視座…過去、現在、未来」は、このような学術交流の国際ネットワーク化のために尽力してきた研究所一同の成果の一部である。今回のシンポジウムでは日本をはじめ、台湾、韓国、中国、アメリカ、オランダから研究者が参加し、東アジア研究の現状について熱く語られた。まさにグローバルな観点に立ち東アジア研究を照らし出す機会となった。今回の特集は、シンポジウム発表内容を取り纏め広く学界と市民社会に貢献することを目的とする。都合の関係上、発表者全員の原稿が揃わなかったこと、また発表当日のタイトルと異なる論文があるが、発表内容に基づく変更であること、予め断っておきたい。なお、二〇一〇年一月のシンポジウムは学校法人学習院国際交流基金の助成の成果である。

李正勲(東洋文化研究所助教) 記す。

二〇〇九年度学習院大学東洋文化研究所主催  
国際シンポジウム

「東アジア研究の新たな視座：過去、現在、未来」

New Perspectives on East Asian Studies Past, Present  
and Future-

プログラム（二〇一〇年一月三〇日）

基調講演

楊彪氏（中国上海華東師範大学）

「衝突と和解：東アジアの歴史記憶」

SOHN Ho Min 氏（米国ハワイ大学）

「東アジアにおける知識人連携の重要性」

第1部 近代東アジアの青年と啓蒙

座長 梅森直之氏（早稲田大学）

伊東久智氏（早稲田大学）

『大正デモクラシー』状況下における『院外青年』

運動と立憲青年党」

紀旭峰氏（学習院大学）

「大正期台湾人の『内地日本留学』と新世代政治青年

の誕生」

小野容照氏（京都大学）

「一九一〇年代在日朝鮮人留学生の出版活動と思想」

呉叡人氏（台湾中央研究院）

「非政治的な政治：戦前台湾民族運動における

大正文化主義」

第2部 東北アジア情勢の現状と展望

座長 磯崎典世氏（学習院大学）

李正勳氏（学習院大学）

「KEDO後の非核化問題」

中戸祐夫氏（立命館大学）

「関与（engagement）からみる包容政策と相生共生

政策の比較検討」

李虎男氏（立命館大学）

「六者会談と東北アジア平和体制の構築」

OKANO-HEIJMANS, Maaike 氏（Netherlands

Institute of International Relations 'Clingendael'）

「Projecting Economic Power: Japan's Role in the

Six-Party Talks」

総合コメント

張華氏（中国中央民族大学）

※所属はシンポジウム当時のもの